適応指導教室「すなはま」の体験活動

室内ゲームとみそ汁づくりとNHK見学　　Ｒ２．２．２５（火）

＜室内ゲームとみそ汁づくり＞

室内で、「フルーツバスケット」と「聖徳太子ゲーム」をしました。その後で、農園でとれたダイコンやハクサイを使って、ダイコンの葉の炒め物とハクサイの胡麻和え、みそ汁を作りました。この日は弁当を持ってきていましたが、調理した野菜尽くしのメニューが加わり、豪華な昼食になりました。

＜NHKの見学＞

午後からは、鳥取を紹介する「いろ★どり」のスタジオ内を見学しました。スタジオに入ると「明るい！」と子どもたちから声があがりました。撮影する時に影ができないように、あらゆる方向からライトが当たるように配置されているということでした。

子どもたちは、３台のカメラから撮影した映像がリアルタイムで大型テレビに映し出されたりする様子を見て、興味を持ってスタジオでの体験をすることができました。また、NHKの屋上に設置されているカメラで、遠く離れた南隈や賀露までもくっきりと映していることに驚いていました。県内に９か所ライブカメラが設置されていて、防災にも活用されると聞き、災害時に果たす情報機関の役割についても学ぶことができました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

調理実習と室内ゲーム　　Ｒ２．２．１８（火）

＜調理実習＞

すなはま農園で収穫したニンニクと白菜を使って、八宝丼と餃子を作りました。中華メニューということで、ニラ入りの卵スープも作りました。

八宝丼の味付けは、夏に収穫したニンニクをしょうゆに漬けた「ニンニクしょうゆ」を使いました。ニンニクの風味が食欲をそそる一品に仕上がりました。餃子を包むのは初めての子どももいましたが、知っている子どもたちにアドバイスをもらって、上手に包むことができました。焼き上がりに水溶き片栗粉をかけて、パリパリの羽根つき餃子ができ、大成功でした。会食では、お世話になった先生方を招いて、おいしくいただきました。

＜室内ゲーム＞

午後からは、簡単ビンゴゲームと「絵しりとり」をしました。

ビンゴゲームでは、「野菜」、「動物」などのお題に合わせて３マス×３マスのマスの中に自分の知っている名前を入れて、順番に一つずつ答えていきました。３列ビンゴになると上がりというルールで、小学生も中学生も楽しみました。

また、「絵しりとり」では、２チームに分かれて対戦しました。しりとりの答えを絵に描いてつなげていくルールで、かわいい絵がたくさん見られて、ほのぼのとしました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

新日本海新聞社と市立中央図書館の見学　　R2．2．10（月）

＜新日本海新聞社の見学＞

新日本海新聞社では、日本海新聞が地域に根差した新聞であること、配る地域によってその地域のニュースが取り上げられていることを学びました。昨日の新聞を用いて、題字や見出し、リードなど新聞の構成についても説明を受けて、その日の大きなニュースを的確につかむにはどこを読むとよいかを知ることができました。また、今はパソコンで作業をするので、記事を書いたり修正したりするのが容易だけれども、昔は記事を貼り合わせて作っていたので大変だったことも知りました。

その後、各部署を見学しました。記者や整理の部署では、仕事内容によって働く時間帯が違うこと、記事の内容によって４つの班に分かれて取材して、班ごとに検討して紙面を構成していることを知りました。子どもたちは、事業部で花火大会や県民文化会館のイベントの企画等もしていると聞いて、いろいろなことに新聞社が関わっていることに驚いていました。

＜市立中央図書館の見学＞

午後からの図書館の見学では、図書館利用の決まりや貸し出しについて、図書館内の各コーナーや配架されている図書等について教えていただきました。

子どもたちはパソコンで借りたい本を検索したり、実際に書架の本を手に取ったりして、借りる本を決めていました。教えていただいた自動貸し出し機を自分で操作して借りることができました。

子どもたちは、読んでみたい本をわくわくしながら選び、実際に借りて帰ることができ、大満足でした。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

鳥取県警本部の見学と科学実験　　R2．2．5（水）

＜鳥取県警察本部の見学＞

始めに、警察本部の仕事の説明をしていただきました。その後、通信指令室と交通管制センターを見学しました。鳥取県内の 110 番通報はすべてこの指令室へつながり、ここから現場に向かう指令を出すということでした。設置されているパネルに今日の１１０番通報の件数が表示され、刻々と件数が変化する様子を見ることができました。交通管制センターでは、旧型の信号機と LED の信号機を比べてると、LED のものの方がずいぶん明るく見やすくなってきていることに気づくことができました。

＜こども科学館の出前科学実験＞

午後からは、こども科学館の担当者の方にお越しいただいて科学実験をしました。子どもたちは、プラズマボールに触ったり、フランクリン沸騰器を手のひらで温めるとアルコールが管を上がって、まるで沸騰したかのように泡があがってくる現象を見たり、いろいろな実験に感嘆の声があがっていました。

自然界の不思議な現象を実験で再現して、現象の原理を教えていただきました。科学の不思議さや面白さを実感した１時間でした。

適応指導教室「すなはま」の活動

書初めと百人一首大会　　R2．１．２１（火）

稲垣晴雲先生においでいただいて、書初めをしました。各自が自分の好きな言葉を毛筆で書きました。「大志」「希望」「無限」等、新春らしい言葉を練習しました。「はらい」や「そり」を苦手に思っている子どもが多くいて、その部分の運筆を一人一人子どもの手を取って教えていただきました。子どもたちは、稲垣先生の書かれる筆先を真剣に見つめて、１時間半集中して取り組み、清書を書き上げました。先生から、「この時間最初に書いた文字と最後に書いた文字を比べてとても上手になっている。教えてもらったことに素直に取り組む構えがいい。」とほめていただきました。熱心に練習した成果を各自が確認して、満足そうでした。

＜百人一首大会＞

百人一首を２対２の４人組で対戦しました。中学生と小学生が交じって対戦しましたが、各自お気に入りの句があり、一生懸命とろうとする姿が見られました。

始めるまでは、「あまり覚えていないから、するのは気が重い。」と話していましたが、対戦を終えると、「しているうちに力が入った。またやりたいので、読んでください。」と意気込んでいました。

小学生も中学生も、大いに盛り上がりました。

適応指導教室「すなはま」の活動

豆乳工場と県生活協同組合の見学　　R2．１．１４（火）

＜豆乳工場見学＞

鳥取市河原町西円通寺にある豆乳工場マルサンアイに行きました。

この工場は２０１７年に設立して、１時間に１リットルの豆乳パックを８０００個生産しているそうです。豆乳の製造やパック詰め、箱詰め等、機械化された近代的な設備を見て、子どもたちは圧倒されていました。見学したとき、一つのラインは国内向けでスーパーマーケットでも見られるパッケージ包装の豆乳、もう一つはオーストラリアへ輸出される豆乳だと説明を聞いて、鳥取から海外へということも驚きでした。豆乳工場が鳥取市に誘致された理由が、「きれいな水と豊かな自然があるから。」と聞き、私たちの故郷のよさを認めてもらったようで、みんなが嬉しく思いました。

最後に、豆乳を試飲しました。豆乳は初めての子どももいましたが、大豆本来の甘味を生かしたものや、いろいろに味付けされた豆乳をおいしくいただきました。

＜鳥取県生活協同組合の見学＞

鳥取県生活協同組合は、県内に約６万人の組合員さんがいて、カタログ注文による商品を配達しているそうです。冷蔵品と生鮮食料品を仕分けしている様子を見学しました。米子市や境港市へ運ばれるものもありました。従業員の方が、注文書通りにたくさんの商品を一点一点箱に入れていました。冷蔵品ということで、作業するところの温度も低く、品質の管理のためであることも知りました。

冷凍品や常温の商品は、中国五県は広島県尾道市で一斉購入し、仕分けもそこでしているそうです。

商品の注文や発送が、鳥取県内だけではなく、もっと広範囲で行われていることを知り、商品の流通のグローバル化に驚きました。

子どもたちは、「今回見学した２か所とも、鳥取道に近く、交通の便の良いことが立地条件となっているのかな。」と話していました。

適応指導教室「すなはま」の活動

調理実習（ラザニア他）とジュニア県展見学　　Ｒ元．１２．２４（火）

＜調理実習＞

白菜と豚肉のラザニア風、大根スープ、大根サラダ、ご飯、スイートポテトを作りました。メニューには、すなはま農園で収穫した野菜（ダイコン・人参・サツマイモ・ニンニク）を使いました。子どもたちはフライパンに白菜と豚肉と餃子の皮を３回重ねて、コンソメスープで煮込んでいくと、ラザニア風のイタリア料理になったことに驚いていました。身近な材料と道具で洋風な料理ができ上がりました。また、今年初めて育てた安納芋でスイートポテトを作りました。イモはゆでると鮮やかなオレンジ色になり、味もとても甘く、おいしいデザートができました。できた料理をランチョンマットにのせ、ちょっぴりおしゃれな気分で会食しました。

＜ジュニア県展の見学＞

県立博物館に第１７回鳥取県ジュニア県展の鑑賞に行きました。書写、写真、絵画・デザインの３部門の作品が展示してありました。子どもたちは、半紙に黒々と書かれている勢いのある毛筆の作品に感動し、「こんな風に書いてみたいな。」「すごくうまい。」と話していました。また、写真では家族や風景が鮮やかに撮影されていて、写真を取り巻く人々の思いが伝わってくるようでした。絵画では、ザリガニ、ヒマワリ、タケノコなど、自分たちが描いた経験と重ねながら楽しく鑑賞していました。「好きな作品を見つけよう」というめあてで鑑賞しましたが、一人一人が感動した作品は違っていて、とてもたくさんの好きな作品が見つかりました。

適応指導教室「すなはま」の活動

裁判所とわらべ館の見学　　Ｒ元．１２．１７（火）

＜裁判所の見学＞

裁判所がどんな役割をしているかを学びに出かけました。裁判所では、もめごとの解決や罪を犯した疑いで起訴された人を法に基づいて裁く仕事をしていることを知りました。

役割についてのDVDを視聴した後で、法廷を見学しました。法廷には、正面に裁判官席、その両側に検察官席と弁護人席、真ん中に証言人席がありました。子どもたちは、それぞれの席に座ったり、法服を着たりして、実際の裁判の様子を模擬体験しました。質問コーナーでは、「裁判で木槌をたたくことはないのですか。」とか、「裁判官が１名と３名とは、どうして違うのですか。」など、疑問に思ったことを尋ねていました。裁判所の方に、質問や裁判員制度などについて分かりやすく教えていただき、子どもたちは裁判所が今までより身近なものに感じられたようでした。

＜わらべ館の見学＞

わらべ館では、普段はガラスケースに展示されているからくりおもちゃを見せてもらいました。専門員の方が、説明しながら軸を動かしてくださると、いろいろな形の歯車が回り、動物や人形がおもしろい動きを生み出します。子どもたちはとても興味深かったようです。

イベントホールでは、冬のイベントとして、たくさんのおもちゃが展示されていました。子どもたちは、壁をよじのぼるボルダリングのおもちゃやたくさんのレールおもちゃなど、実際に手に取って楽しんでいました。また、アニメソングのカラオケコーナーも人気で、数人でロずさんで盛り上がっていました。

子どもたちは自由に見学し、いろいろなコーナーで関わり合いながら楽しみました。

適応指導教室「すなはま」の活動

和紙を使って共同制作　　Ｒ元．１２．１０（火）

　折り紙教室の貞谷隆子先生に教えていただき、因州和紙を使ってコスモスの花と白ウサギを折りました。

　始めに、真っ白の手もみ和紙で白ウサギを折りました。２枚の和紙で頭と胴体を折りました。胴体に丸い尻尾を折り込むと、とてもかわいいウサギになりました。

　次に、コスモスの花を折りました。紫、ピンク、白と色とりどりの花を折り上げていくと、教室も折っている子どもたちの顔も華やいできました。背景はパステルを使って秋の澄み切った青空を描きました。白ウサギと大小さまざまな花を並べてみると、優しい色合いの素敵な共同制作になりました。

　子どもたちが相談して、題を「ウサギたちの秘密の楽園」と名付けました。美しいコスモスに囲まれて、仲良く集っているウサギたち、すなはま教室での活動が子どもたちの心を落ち着かせ、仲間と集うことを楽しんで、それが社会へ一歩踏み出す気力につながってくれることを願っています。

　すなはま教室では毎年共同制作を行っています。今年度はこの作品を教育センター２階廊下に飾りました。ご来所の際にぜひご覧ください。

適応指導教室「すなはま」の活動

餅つき体験　　Ｒ元．１２．３（火）

　すなはま教室で餅つきをしました。
　臼と杵を使って、２臼分をつきました。杵を使っての餅つきは、保育園以来という子どもがほとんどでしたが、掛け声をかけながら一人が１５回ずつ交代しながらついていくと、ふっくらとした柔らかなお餅ができました。

　餅は小豆のあんこ餅ときな粉餅にして食べました。甘いお餅とすなはま農園の野菜を使った豚汁で、おなかいっぱいになりました。

　みんなが仕事を分担し合って、また何人もが交代しながらつくことで、やっとお餅ができました。一人一人は小さな力でも、協力してつくことでおいしいお餅になることが分かりました。

適応指導教室「すなはま」の活動

すなはま教室保護者参観（アート体験）　　Ｒ元．１１．２７（水）

すなはま教室の保護者参観を行いました。

午前中は、県立博物館の学芸員の方に来ていただき、アート体験をしました。

教室の壁や机、床等全部を紙で被い、思い思いの場所に自分の大好きなキャラクターや動物、自然の絵を描きました。筆やローラーを使ったり、手や指を使ったりして、大胆に描き上げていきました。１時間もすると、教室いっぱいににぎやかな絵が完成しました。

午後からは、保護者も加わり、午前中の絵の鑑賞会をしました。真っ暗な教室に入り、みんなでカウントダウンしブラックライトを点灯すると、「わあっ。」と感嘆の声があがりました。絵の具が光り、教室いっぱいに鮮やかなアートが浮かび上がりました。子どもたちも、保護者も、壁や床に広がる素敵な絵の世界を楽しみました。

絵の鑑賞後、交流訪問で披露した手話や「はらぺこあおむし」のペープサート劇等を保護者の方々に見ていただきました。その後、すなはま教室の学習や体験活動の様子をスライドショーで振り返りました。子どもたちも保護者と一緒に体験活動や集団活動のスライドを見て、入級してからのことを思い出し懐かしがっていました。

保護者会では、先輩保護者さんに体験談をお話していただきました。家庭での子どもへの接し方や学校への登校や進学のこと等、互いが抱えている悩みを共有することができました。

適応指導教室「すなはま」の活動

福部保育園へ訪問交流　　Ｒ元．１１．１９（火）

　福部保育園へ交流に行きました。
　手話を交えて「さんぽ」を歌ったり、絵本「はらぺこおあむし」のペープサート劇をしたり、クイズをしたりと、保育園児に楽しんでもらえることをめあてに交流しました。年中組のみなさんからは、お返しに生活発表会に向けて練習している歌をプレゼントしてもらいました。最後は、「パプリカ」を一緒に踊って、大いに盛り上がりました。
　そのあと、一緒にお昼を食べてから、コマ回しやあやとりなどを楽しみました。子どもたちは、人懐っこくのびのびと活動する園児たちの様子に、自分たちの小さかった頃のことを思い出しているようでした。
　緊張して出かけましたが、親しく触れ合うことができて、心がほっと温まるような体験活動になりました。

適応指導教室「すなはま」の活動

警察学校と日本海新聞製作センターの見学　R元．１１．１２（火）

＜鳥取県警察学校＞

警察学校では、装備点検と逮捕実技での護身訓練、鑑識作業を見学しました。子どもたちは、装備点検でのきびきびした動作に、自ずと背筋を伸ばしていました。警察官が装備している警棒、手錠等を見たり、手袋やチョッキを実際に着させてもらったりしました。

鑑識作業の見学では、アルミの粉と石松子を混ぜて、自分がつけた指紋の上にふり、指紋が浮かび上がってくる様子を興味深く体験しました。

警察官に採用されてから、危険な事に対処するために日々訓練したり、身を守る装備についても点検したりしていることを知り、それらが私たちの安全な暮らしを守ることにつながっていることを学びました。

＜日本海新聞製作センター＞

新聞ができるまでの説明を聞き、製作センター内を見学しました。印刷機も、新聞を印刷する紙も、インクのタンクもどれも巨大でした。新聞は印刷機で印刷されて、ベルトコンベアにはさまれて、この工場をぐるぐる回りながらインクを乾かしているそうです。それを百部ずつ縛って包み、一日１６万４０００部がトラックに積み込まれていくそうです。工場内はインクのにおいがいっぱいでした。

停電や災害の場合について質問が出ました。製作センターには自家発電装置があって印刷ができること、災害等で印刷ができない時は他の新聞社にお願いして印刷をするように連携し合っていることを教えていただきました。新聞を毎日発行するために、いろいろな仕組みや仕事をされていることが分かりました。

適応指導教室「すなはま」の活動

鳥取大学でものづくりと科学実験　　R元．１１．７（木）

　鳥取大学に行き、ものづくりと科学実験を体験しました。

　大学では、初めに大学生の昼食を体験しました。学食で５１０円を上限に各自思い思いに注文して食べました。

　次に、ものづくり体験で風力発電の仕組みを学ぶ「風の力で光る！」を作りました。モーターにLEDライトを付け、さらにペットボトルで羽根を作って取り付けました。でき上がると、子どもたちは我先に扇風機の前で風を当てて、光るかどうか試していました。赤い光がつくと、「やった！」と感嘆の声をあげ満面の笑みを浮かべていました。

　最後に、羽根に色を付けて一人一人が「マイ風車」を完成させました。

　ものづくり後に、「超電導」のお話と実験を見せていただきました。液体窒素のマイナス１９６度の中で風船の中の空気が液化し風船がしぼんでしまうこと、強力な磁石を液体窒素で冷やしていくと、その上に置いた磁石が浮き上がることなど、不思議な現象を見せていただきました。

　体験後に「理科が嫌いになりかけていたけれど、興味が出ました。」と感想を書いていた子どももあり、自然界の不思議な現象や科学の進歩に魅せられた時間でした。

適応指導教室「すなはま」の活動

デイサービスへ訪問交流　　Ｒ元．１０．２９（火）

なないろデイサービスへ交流に行きました。

手話を交えて「さんぽ」を歌ったり、「はらぺこあおむし」のペープサート劇をしたり、ハンドベルで「ふるさと」を演奏したりと、通所者の方々に楽しんでいただくように練習してきたことを披露しました。子どもたちは手遊び歌や体を動かして歌を歌うことをちょっぴり恥ずかしがっていましたが、通所の皆さんが笑顔で一緒に活動してくださったので、子どもたちも自信を持って堂々とやり遂げることができました。

最後に、これからも元気で楽しく過ごしてほしいという願いを込めて、子どもたち手作りの曼荼羅ぬり絵を手渡しました。通所の皆さんからは、「楽しかった。」「また来てね。」と声をかけていただきました。

通所者の方々が一生懸命に披露する子どもたちを温かく見守り、笑顔で参加してくださったことで、子どもたちも「来てよかった。」「喜んでもらえて嬉しかった。」と達成感を持って交流を終えることができました。

適応指導教室「すなはま」の活動

そば打ち体験と宇倍神社の見学　　Ｒ元．１０．２３（水）

＜そば打ち体験＞

国府町吉野でそば打ち体験をしました。そば粉と小麦粉が７対３の割合で混ぜてある粉に、卵を混ぜた水を少しずつ加えてこねていきました。教えてくださる吉野そばの方の説明をしっかり聞いて、始めは素早く、しかもほろほろになるように粉をさばいていきました。次に、手のひらに力を入れてこね、上手にのし棒を使ってのばしました。最後にそばを畳んで切るところまでしました。

子どもたちは、そばをのし棒でのばして、画用紙よりも大きくなったところで歓声を上げていました。「こねるとき力が必要で大変だった。」「３人組でやっとそばが完成した。」と話していました。みんなの協力でそばができ、ざるそばやかけそばをおいしくいただきました。

＜宇倍神社の見学＞

因幡一の宮「宇倍神社」では、神社の方に説明を受けながら、見学しました。宇倍神社は、武内宿禰命（たけのうちすくねのみこと）を祀っている神社で、武内宿禰命と宇倍神社が載った明治時代のお札を見せていただきました。子育ての神様、長寿の神様として信仰されてきたそうです。

子どもたちは、神職の方に参拝の仕方を教えていただいたり、「神社に砂利が敷き詰められているのはなぜ？」とか、「願い事を書く板を絵馬というのはなぜ？」と、普段お参りをしている時に不思議に思っていることを質問したりしました。

「大木に囲まれた階段を百三十段上り、手を清め、玉砂利を踏みしめていく音を聞き、心を落ち着かせて神様と向かい合う。願い事は、自分の努力する姿を示してお願いすること。」など、神職の方のお話からたくさんのことを学びました。

適応指導教室「すなはま」の活動

ポニー牧場で乗馬体験　　R元．１０．７（月）

＜厩舎（きゅうしゃ）の掃除と馬の世話体験＞

ハーモニーカレッジ空山牧場に行きました。牧場では、乗馬や厩舎の掃除、ポニーの世話、餌やり等を体験しました。

馬とコミュニケーションをとることが大事ということで、まず手のにおいを嗅がせて、目を合わせ、スキンシップをしていくことを教えてもらいました。それから、厩舎の掃除や馬の世話をしました。厩舎に敷き詰められているおがくずと馬糞をふるいで分けて片づけたり、新しいおがくずを運んできたりしました。ほとんどの子どもたちは初めての経験でしたが、きれいになるまで一生懸命掃除をしました。馬の世話では、体にブラシをかけたり、蹄（ひづめ）の手入れをしたりしました。

次に、乗馬体験をしました。子どもたちは、歩き始めや歩行を止めるときの合図を習って、馬場を３周回りました。２周目に入るころには、気持ちにも余裕ができて、見ている友達に手を振ったり、駆け足にチャレンジしたり、にこやかな表情で乗馬を楽しんでいました。

乗馬後に持ってきたニンジンをやり、乗せてくれてありがとうの気持ちを伝えていました

子どもたちは、「体験する前は馬が大きくて、怖かったです。でも、乗ってみるとゆっくりと歩いてくれて、おとなしかったです。」「ポニーに乗ったり蹄の手入れをしたりして、楽しかったです。慣れたらとてもかわいかったです。」と感想を述べていました。

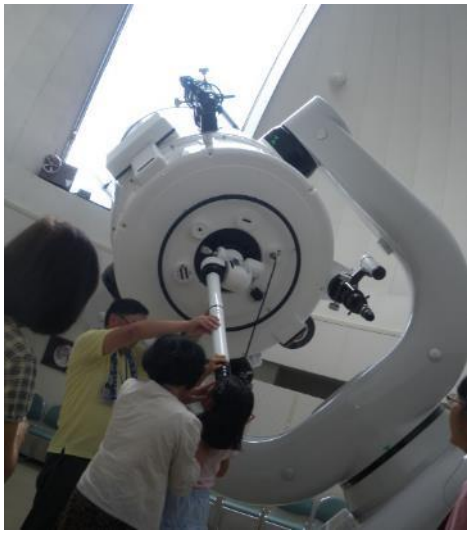
天候にも恵まれ、青空とさわやかな秋風、自然豊かな空山での活動で、たくさんいい笑顔が見られました。

適応指導教室「すなはま」の活動

さじアストロパークの見学　　R元．１０．１（火）

＜プラネタリウムで星の学習＞

前半は、秋の代表的な星座のペガスス座とカシオペヤ座の見つけ方と星座にまつわる神話を教えていただきました。午後９時ごろ、真上のあたりに見える大きな四辺形が目印だそうです。また、秋には夏の大三角もまだ見えていて、わし座やこと座、はくちょう座も見つけることができるそうです。子どもたちは、「たくさんの星の中から、一つでもお話に出てきた星を見つけたい。」と話していました。



次に、口径１０３センチの反射式望遠鏡で昼間に見える星を見ました。あいにくのにわか雨で雲がうっすらとかかっていましたが、こと座のベガを見ることができました。明るい空にきらきらと光る小さな白い点のように見えました。

この望遠鏡で新しい星を見つけ、「二十世紀」や「さじ」と名付けられた星があるそうです。

＜館内展示でクイズラリー＞

宇宙に関するいろいろな展示を見てクイズに答えました。惑星の大きさやその様子、宇宙飛行の歴史などたくさんのことを学ぶことができました。

鳥取県を「星取県」と名付け、星がきれいに見えるこの環境を守っていこうという取り組みに自分たちも参加し、夜空を見上げて星を見ていこうと話しました。